

日本小地理書

高城與五郎編

卷二

館藏圖書			
九		三	
三	七	四	一
册	號	架	函

特31

476

359

022769-000-5

特31-476

日本小地理書 卷之2

高城 与五郎/編

M20

ADB-0565



訂

正

高城與三郎編

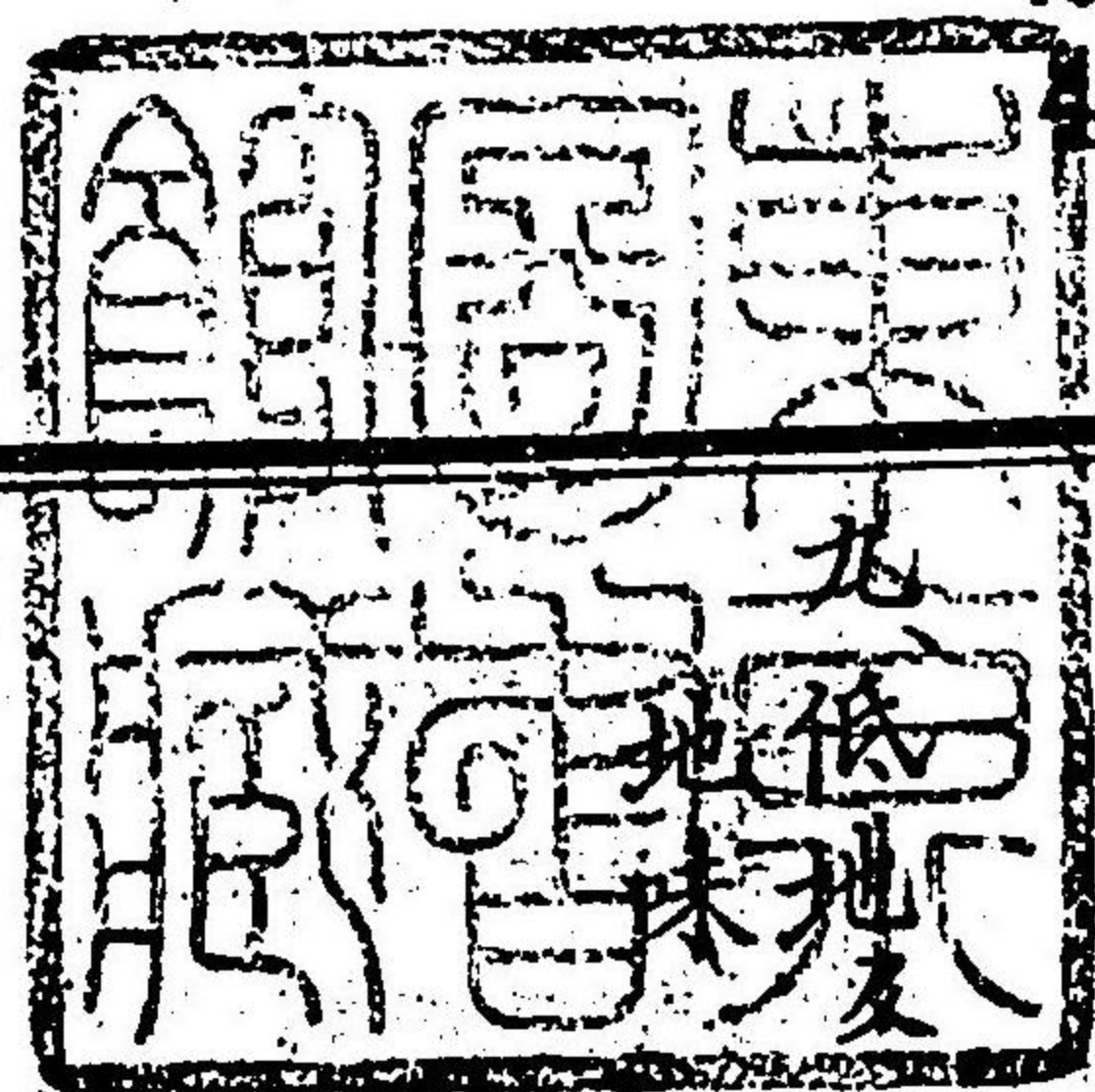
日本地理書

版權  
所有

翠嵐書屋藏版



特31  
76



日本小地理書卷之二

高城與五郎編

高城與五郎編

全國山岳多きを以て、海岸の外低地甚少。  
然まども二三の廣漠肥沃なる低地あり。まふ  
あらば、八州の平野、石狩の平野、及尾張美濃  
の平野等ハ、甚廣濶なる低地にして、延長數  
十里ふ亘たり。

地味を一般に豊沃にして、火山地方を除く  
の外、到る處植物繁茂、陸産甚富めり、殊に

日本小地理書卷之二

高城與五郎編

武藏上野下總及尾張美濃石狩の平野陸前肥後の低地其の他淀川信濃川筑後川下流の低地等ハ最豊饒ふして五穀菜蔬果物等ふ適し其の收穫實ふ夥し。

イ、蝦夷嶋

蝦夷嶋ハ北海岸を除くの外地味甚豊饒ふして現今盛ふ開墾ふ着手せり。

ロ、本嶋

本嶋の東南岸ハ概肥沃ふして五穀桑茶等ふ適まきども北海ふ瀕まきの地ハ多く硯確なり殊ふ山陰道と甚しといふ。

ハ、九州嶋及四國嶋

九州嶋ハ筑後川以西の平野及肥後の平野

等最肥沃なり殊ふ肥後地方ハ米穀の産出多し。四國嶋ハ諸川の近傍ハ肥沃の平野少からむ。

十、氣候及植物

氣候ハ概して温和ふして且降雨多く寒暑共ふ極めて酷烈なるふ至らむ。然まども地遠く南北ふ亘ると以て彼此自同トからん。植物の狀態も亦從ひて異まり。

イ、蝦夷嶋

蝦夷嶋諸國ハ寒威凜烈ふして盛夏と雖單衣と着くこと稀なり。冬時積雪數尺海水爲に凍合まるふ至る。其の植物ハ檜落葉松

樺等最多。

口、本嶋

本嶋の東南海ふ面さるの諸國ハ氣候殊ふ  
温和ふして、大に人身ふ適ま。中ふ就きて畿  
内、東海道の如きて氣候和適にして、有用の  
植物繁茂、廣大なる森林多し。

陸中陸奥ハ本嶋ノ最北ニ位スルヲ以テ  
寒氣甚強シ  
飛驒信濃ハ地勢高峻ニシテ且山岳ノ間  
ニ在ルヲ以テ寒威殊ニ烈シク冬時積雪  
數尺夏時ハ雲雨多シ

日本海ふ面さる諸國ハ南ハ山脈と帯び北  
ハ海ふ面さると以て冬時甚寒冷ふして、殊

ふ北風強く、降雪最多

し、而して地を桑麻ふ  
適せり。

越後高田近傍ハ積  
雪丈餘ニ達シ市街  
雪ニ埋モレ簷下ニ  
ニ行人ヲ通ズルニ  
至ル

ハ、九州嶋及四國九州の二嶋ハ、共ふ暖燠

四國嶋

ふして、冬月雪と見る  
こと稀なり。夏時炎熱  
ふして、蕃薯、甘蔗、果物



等の植物も適也。

二、琉球小笠原諸嶋

琉球小笠原の諸嶋ハ、遠く南海中ニ在ると以て氣候炎熱にして、絶て霜雪と見えず、盛夏熱最甚し。然れども海風常ふ多きを以て、稍堪ふると得べし。

琉球ハ夏秋ノ候颶風暴雨ノ屢到ルコトアリ故ニ民屋皆倭小ナリ

草木ニ終年凋落せず、綠葉常ふ蒼鬱として、芭蕉榕樹露兜樹鳳梨蘇鐵椰樹等甚繁茂せり。殊小琉球嶋ニ地最甘蔗も適也。

十、生業及産

本邦の最重要なる生業ハ、農業にして之も

物

次ぐものと商業工業及漁業と也。其の他熊獵牧畜鑿鑛等ありと雖共小盛大なるに至らん。

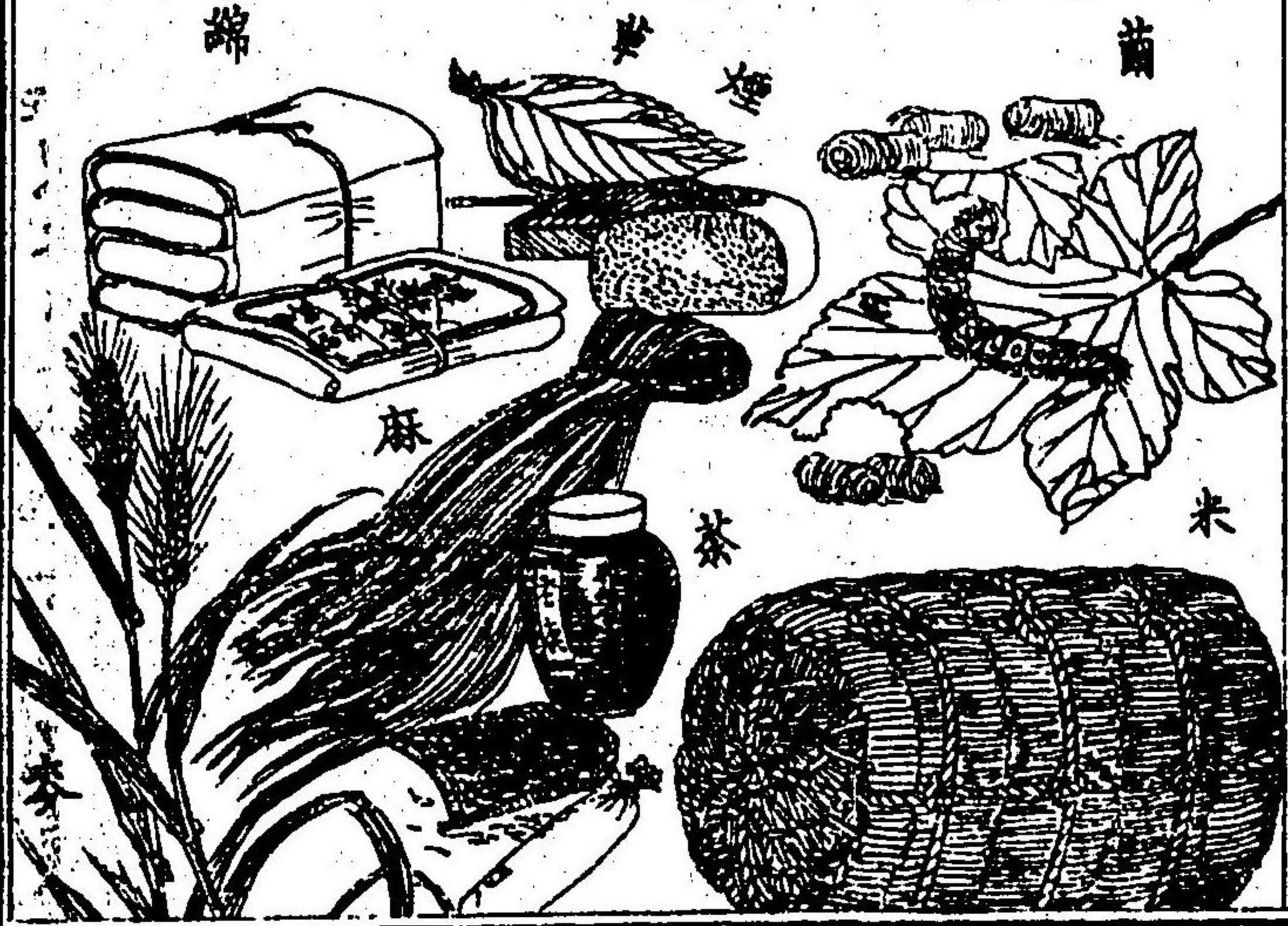
一、農業及農産物

農業ハ最廣く行をせ、本嶋及四國嶋九州嶋ハ邊僻の地と雖到る處田圃あらざるをなく、盛ふ穀物菜蔬菓物等有用なる植物と耕種し、其の收穫頗夥し。

地方ふよりて、其の土も適したるの農産あり。畿内東海ハ茶及綿と産出せ、山城駿河近江等の茶、河内尾張三河の綿、甲斐の葡萄、信

濃の蕎麥等ハ最<sup>モ</sup>有名ナリ。東山北陸山陰山陽の諸道ハ桑樹及<sup>ビ</sup>麻苧に適<sup>シ</sup>、信濃越後上野岩代等の桑下野の麻苧等最<sup>モ</sup>名あり。養蠶ハ東海山陰兩道の東部諸國及<sup>ビ</sup>東山道の各國小行<sup>ス</sup>。而<sup>シテ</sup>甲斐の東部地方信濃上野の二國阿武隈川沿岸

農産物之圖



の地最上川の上流近傍仙臺及秋田地方も蠶業殊<sup>ニ</sup>盛<sup>ニ</sup>なる處なり。南海西海兩道も甘藷煙草茶等を産<sup>ス</sup>、其の他紀伊の密柑阿波の藍薩摩の蕃薯等と以て重要なる産物とし、琉球嶋ハ蕃薯落花生煙草等と産<sup>ス</sup>、米麥と産<sup>ス</sup>ること少<sup>シ</sup>。北海道も現時盛<sup>ニ</sup>開墾<sup>ス</sup>、農事一、農業と務<sup>ム</sup>むる者多<sup>シ</sup>。且<sup>ニ</sup>地味頗<sup>ニ</sup>豊沃<sup>ニ</sup>なるを以て、後來農産盛大の望あり。

五穀ハ各地皆産出スト雖米穀ノ多ク産  
出スルハ陸前ヲ以テ第一トシ肥後ハ精  
良ヲ以テ其名著ハル

口商業

全國到る處商業あらざるの地ナク、殊小横  
濱、神戸、長崎、函館、新潟の五港ハ外國の互市  
場ふして、外人との貿易甚盛なり。其他大  
坂、東京、下關、金澤等も内國の交易盛大の地  
ふして、商業頗活潑なり。輸出物ハ生絲、茶、米、  
絹布、漆器、陶器等ふして、茶及生絲ハ其の額  
最多ク、漆器及陶器ハ外國人の賞賛する所  
なり。

ハ、工業及  
製造品

古より工業大に開け、且近年各種皆改良の  
状あり。製造品の著名なるものハ、生絲、絹布、  
綿布、陶器、漆器、紙等といふ。

甲、生絲及  
蠶卵紙

生絲及蠶卵紙ハ、養蠶各地ふ於て製出せ、中  
ふ就きて信濃、上野、岩代の三國ハ、製絲の業  
最盛ニ、輸出の量最多ク、我國第一と稱せ。

上野ノ富岡ニ壯大ナル製絲場アリテ其  
名高シ

乙、絹布

絹布ハ山城の西陣と最と、甲斐の郡内、武  
藏の八王子、秩父、下總の結城、上野の桐生、陸  
前の仙臺、羽前の米澤、羽後の秋田、筑前の博



多及近江越前越後丹  
後播磨の諸國其他  
東山道の各地ハ殊不  
有名なるものなり。

西陣ノ織物繻物漆  
物ハ品位高尚ニシ  
テ其ノ名海外ニ籍  
々タリ  
桐生八王子郡内仙  
臺米澤ノ各地ヨリ  
最精良ナル諸種ノ  
織物ヲ出ス伊豆ノ  
八丈絹秩父ノ秩父  
長濱縮緬信濃ノ上  
澤ノ糸織秋田ノ畝  
ノ五泉平丹後ノ丹  
後縮緬播磨ノ明石



筑前ノ博多織殊ニ名アリ

丙綿布

綿布ハ山陽南海二道の各國及畿内東海山  
陰の諸國等産出最多。殊小襦布サマカスリ大和  
總小倉織前豊真岡晒布野下鳴海絞尾張及美作の  
雲齋織等最有名なり。

小襦布ハ元來琉球ノ産ナレドモ曾テ薩  
摩ニ輸シテ内地ニ販ギシヲ以テ此名ア  
ルナリ彼細上布ヲ稱シテ薩摩上布ト云  
フモ亦此理ニ外ナラズ

丁陶器

陶器ハ山城の清水焼尾張の七寶燒瀬戸燒  
伊勢の萬古燒加賀の九谷燒備前の伊部燒  
肥前の伊萬里燒薩摩の薩摩燒等あり殊

ふ七寶燒伊萬里燒  
等ハ最上品ナリ。

清水焼ハ清雅ヲ以テ賞セラレ瀬戸焼ハ最廣ク世ニ行ハル故ニ陶器ヲ稱シテ單ニ瀬戸物ト云フニ至レリ

漆器

漆器ハ能登の輪嶋塗羽後の能代塗若狹の若狹塗等最有名なるものナリ。

陶器漆器之品



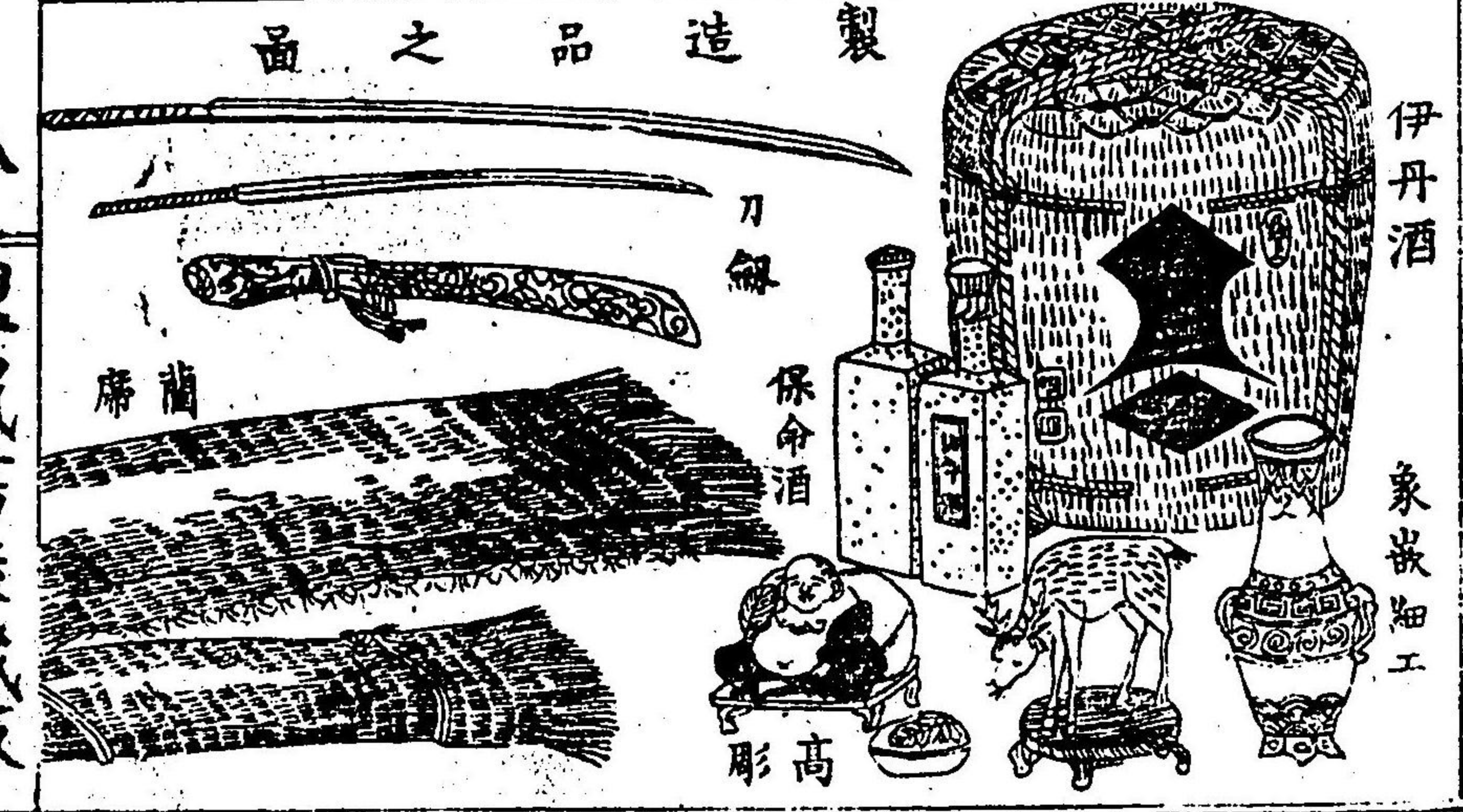
已紙

紙ハ產地頗多く其の種類も亦多し中ふ就きて越前の奉書越中の鳥ノ子加賀の杉原土佐の半紙其の名高く美濃信濃ハ其の種類多く且良質ナリ。

庚其他製造品

麻布ハ越後縮其の名高く細上布(琉球)最上品ナリ之小次ぐものと

製造品之圖





鮮及鮮子ハ本道第一ノ物産ナリ昆布ハ諸海岸ヨリ出ヅ天塩日高釧路ノ品ヲ良品トス臘虎胆胎獸ハ千嶋ノ海ニ多ク鯨ハオコツク海岸ニ多シ路北見ノ海岸ニ多シ

乙九州嶋及四國嶋

九州嶋及四國嶋も亦漁業盛大ふして土佐薩摩の沖ふて鯛鯉多く肥前の西部海中ハ鯨等多しと云

丙、本嶋

本嶋ハ東南岸を最とて山陽東海の諸濱漁網の利あらざるも一鯛鯉鰈鯔蝦蟹海鼠と捕獲ま殊ふ九十九里の濱伊勢海最多し

西北日本海の沿岸ハ、稍少しと雖烏賊章魚

等の漁少からむ。

東海道ニ在リテハ九十九里ノ濱最盛ニシテ鯉魚殊ニ多シ鯨ハ紀伊ノ海ニ多クテ漁ス山陽道安藝ノ近傍ハ蠣田ヲ造リ牡蠣ヲ養フ山陰道ハ漁業甚盛ナラズ北海ニハ烏賊多ク殊ニ章魚ハ甚巨大ナルモノアリテ時々小舟ヲ覆スコト

河海産物之圖



此の他内地の湖沼及江河も亦魚鰯を産ま  
ること多く、宍道湖の鱸、琵琶湖の鮒、利根川  
の鯉等、其の名高し。北海道諸大河の鮭、鱒ハ  
捕獲最多く、且著名なり。

ホ、牧畜

牧畜ハ各地未盛大ある小至らばと雖中  
就きて奥羽の馬、但馬の牛、薩摩琉球の豚と  
最著名あるものと云。

馬ハ陸中ノ北部地方及陸奥ノ五戸七戸  
近傍ヨリ出ツルモノヲ駿良トス

ハ、鑛業及

本邦の山脈ハ銅鐵石炭金銀鉛等の諸鑛

鑛産物

富めり。

甲銅鐵

銅鐵ハ山陰山陽東山  
の諸道ふ多しと雖其  
の盛ふ採掘まるもの  
ハ、陸中尾去澤、下野足  
尾の銅坑、上野中小坂  
の鐵坑等ふ過ぎず。

乙金銀

銀坑ハ但馬の生野、岩  
代の半田と以て有名  
とし、佐渡の金北山ふ



ハ二十餘の鑛坑ありて、金銀を産出せ。其の採掘の量、全國中第一と稱せ。

丙、石炭

石炭ハ蝦夷嶋及九州嶋の山脈中、處々在り。其の最有名なる産地ハ岩内、幌内及肥前の高嶋、筑後の三池等と云。

丁、其他鑛物

以上諸鑛の外、石灰石、硫黄、明礬、水晶、花崗石等ハ、各地概こさあり。水晶ハ殊ホ甲斐を以て多しと云。此の他、瑪瑙、雲母、石膏、錫、アンチモニー、マンガノ諸鑛亦鮮かろ云。

十二、都邑

都邑ハ三府、五港を始とし、各國二三の繁華

隆盛なるものあらざるをなす。而して人口一萬以上と有せるもの、九百廿あり。今其の最重要なるものと、左ふ列擧せ。

イ、三府

甲、東京

東京ハ武藏野の東隅に在りて、東京灣に臨み、隅田川に跨り、東西九、三里、南北九、四里に亘り。我が

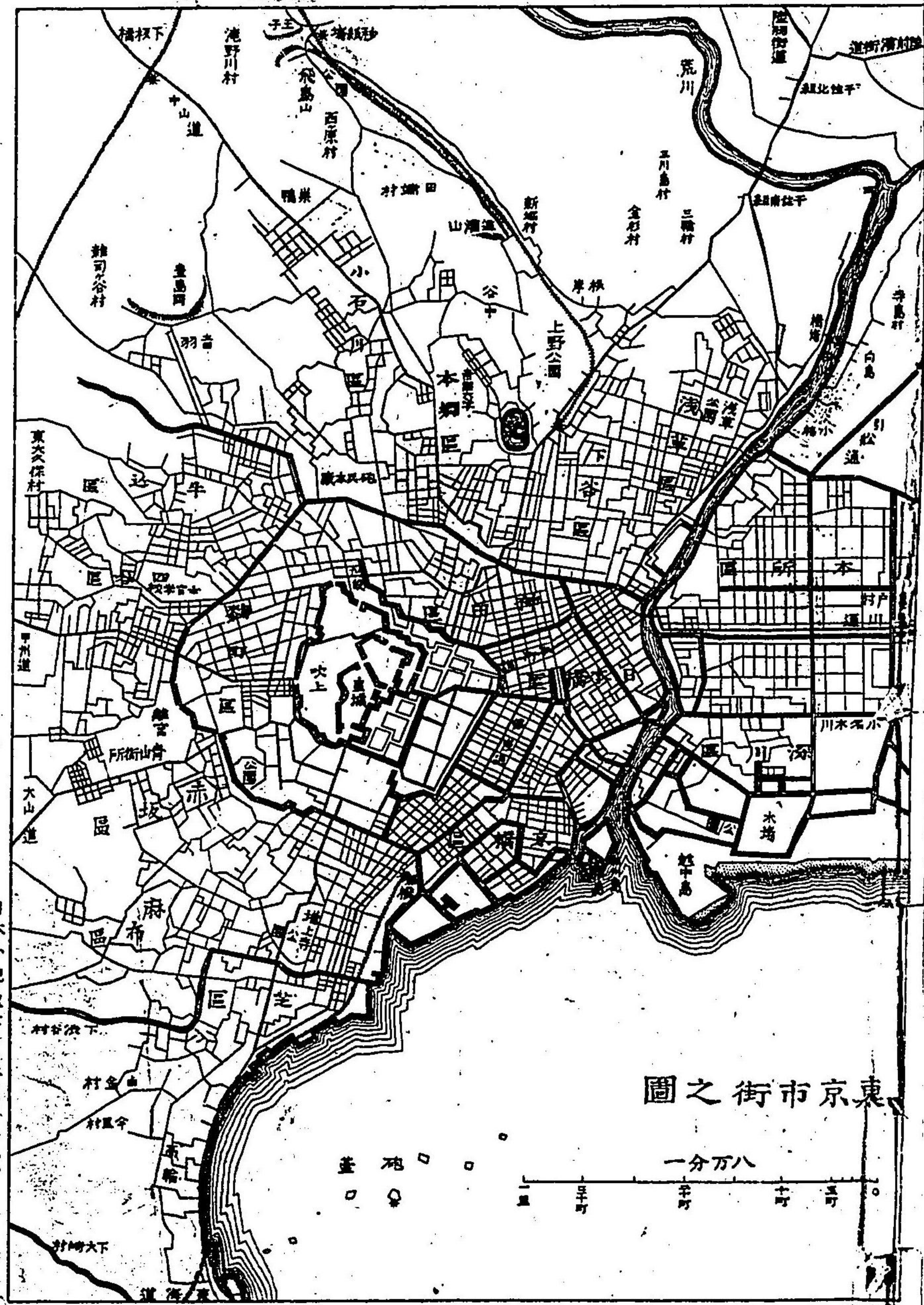
天皇陛下の宮居し給ふ所にして、人口九、九十二萬、實ハ全國中第一の都會なり。

地勢ハ西南部處々丘陵ありて、高低一ならずと雖、東南部ハ概平坦なり。且市中ハ

數多の溝渠ありて、隅田の河水と流通する  
を以て、舟運の利最多し。

此府ハ、全國ノ政令を發布する、大政府の在  
る處にして、諸官廳及學校商社等壯麗なる  
もの頗多く、市街ハ皇城と中央ありて、大小  
の街衢縱横し連絡し、家屋密接して繁盛と  
極め、車馬行人常ニ往來せり。

此地ハ舊江戸ト稱シ徳川氏歴世ノ治所  
タリシガ明治元年帝都ヲ此處ニ定メ  
給ヒシヨリ東京ト改稱セリ  
市場ハ一千餘町アリ分チテ十五區トス  
麴所區ハ皇城ノ在ル處ニシテ諸官衙概  
此中ニ在リ

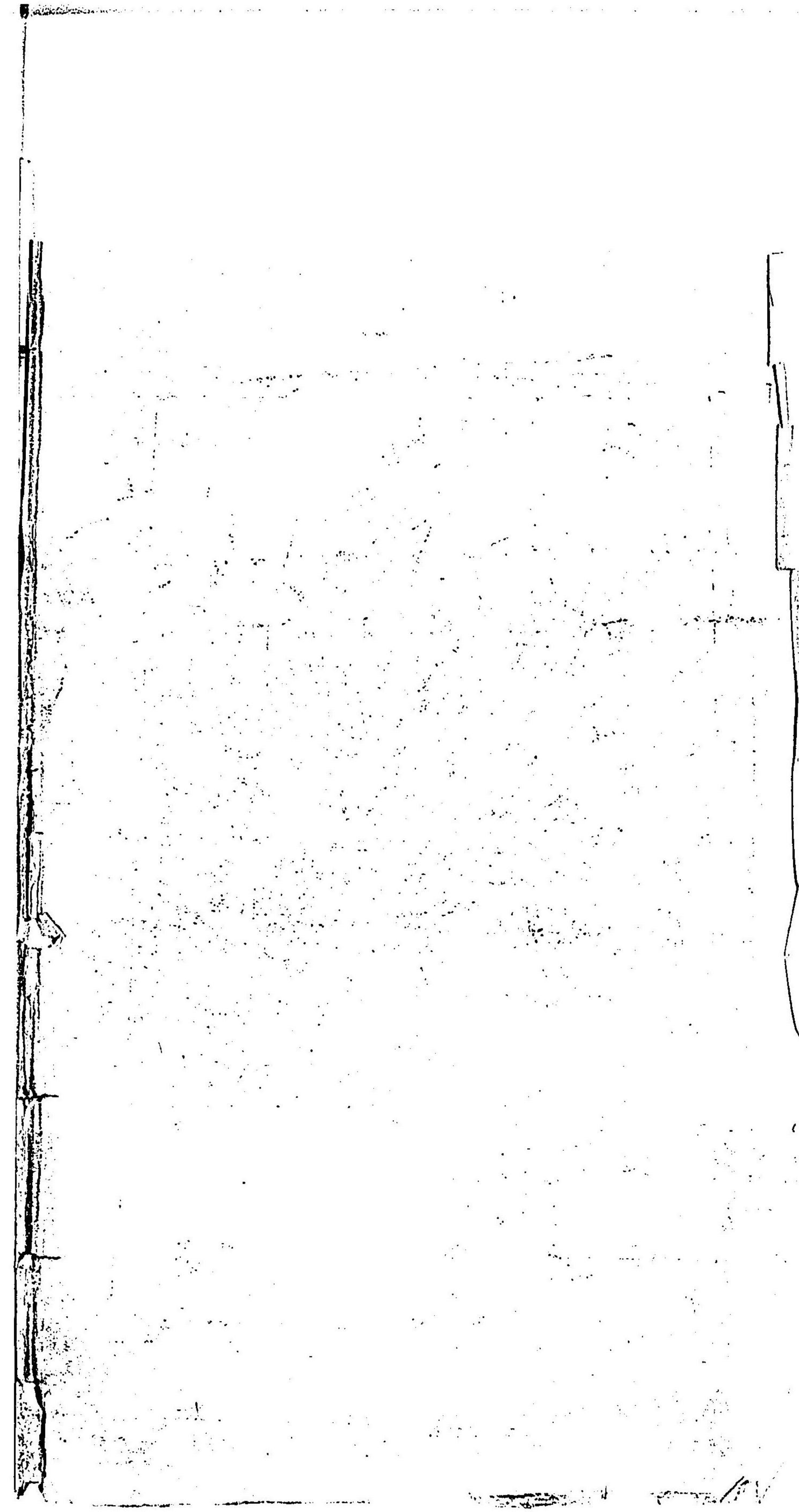


東京市街之圖

一分万八

日本小地理書 卷二十三

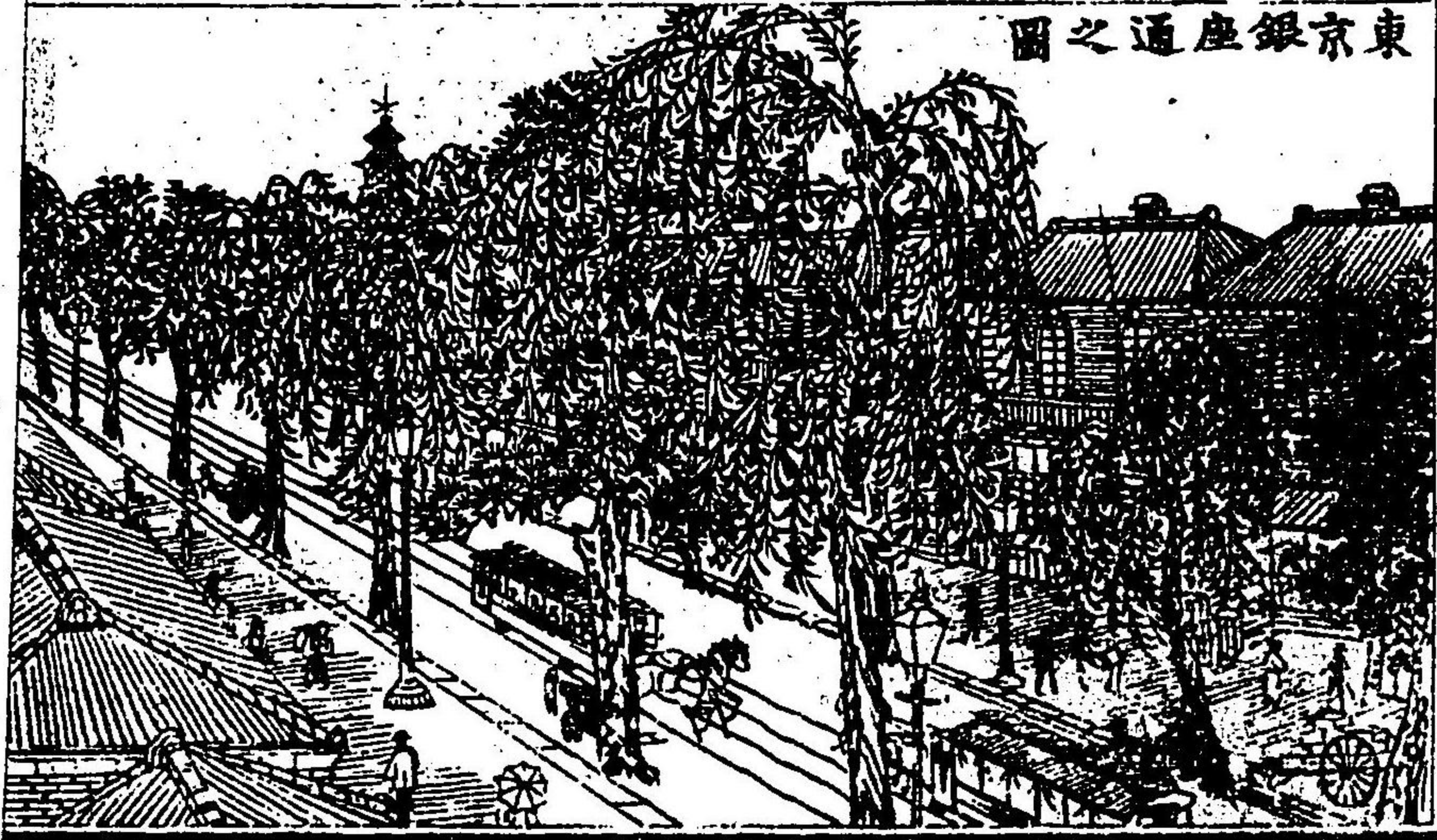




參謀本部印刷局元  
 老院警視廳庶務館  
 各國公使館等著名  
 日本橋區神田區八  
 日業甚盛ニシテ往  
 來ニ便スルノ鐵道  
 馬車アリ暗ヲ照  
 スノ街燈アリ其銀  
 座通ハ都テ煉化屋  
 ニシテ本町通ハ即  
 巨商ノ輻輳スル處  
 ナリ

商業工業共小甚盛不  
 了て諸器械洋紙石鹼  
 玻璃器煉化石等の廣

東京銀座通之圖



大なる製造場あり。

象牙、蠶甲、蔴、繪、等ノ  
細工、品、袋、物、紫、漆、團  
扇、錦、繪、ノ、類、ハ、此、地  
ノ、名、産、ナリ

府下小數箇の公園あり、上野公園ハ、殊小地勢廣潤ふして、高樹鬱蒼たり、且、櫻樹多きを以て、開花の候ハ、遊賞するもの頗多し、公園の傍小不忍池ありて、



東京上野公園之地圖

四時の風景最佳あり。

此他淺草公園ハ繁華ヲ以テ其名高ク飛鳥山ハ櫻花ヲ以テ賞セラレ愛宕山ハ眺望ヲ以テ愛セラレ又向嶋ハ前ニ隅田ノ清流ヲ帶ヒ遠ク富士筑波ノ二峰ヲ望ミ長堤一里植ウルニ櫻柳ヲ以テス四時遊覽ノ地ナリ

上野公園の東小鐵道あり、線路大宮東京ヨリ九七里

小至り、分きて二支となり、一ハ下野小入り、一ハ上野小入り、又新橋小鐵道ありて、横濱小達まで、里程九、八里。此等の諸線ハ、現今尚布設中不在りて、駿々其の程と長く、漸次東京より名古屋、京都、青森等小達せむるの

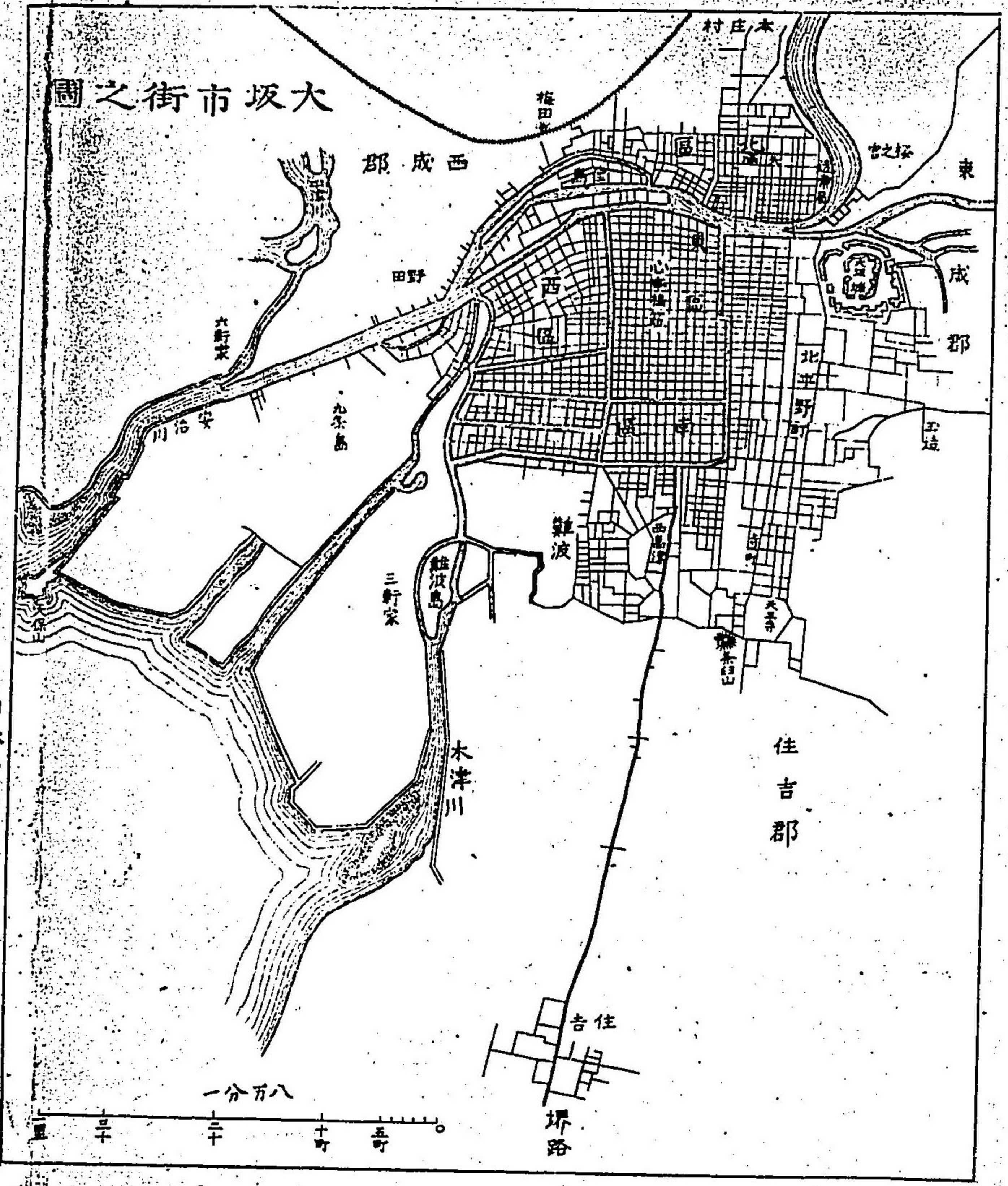
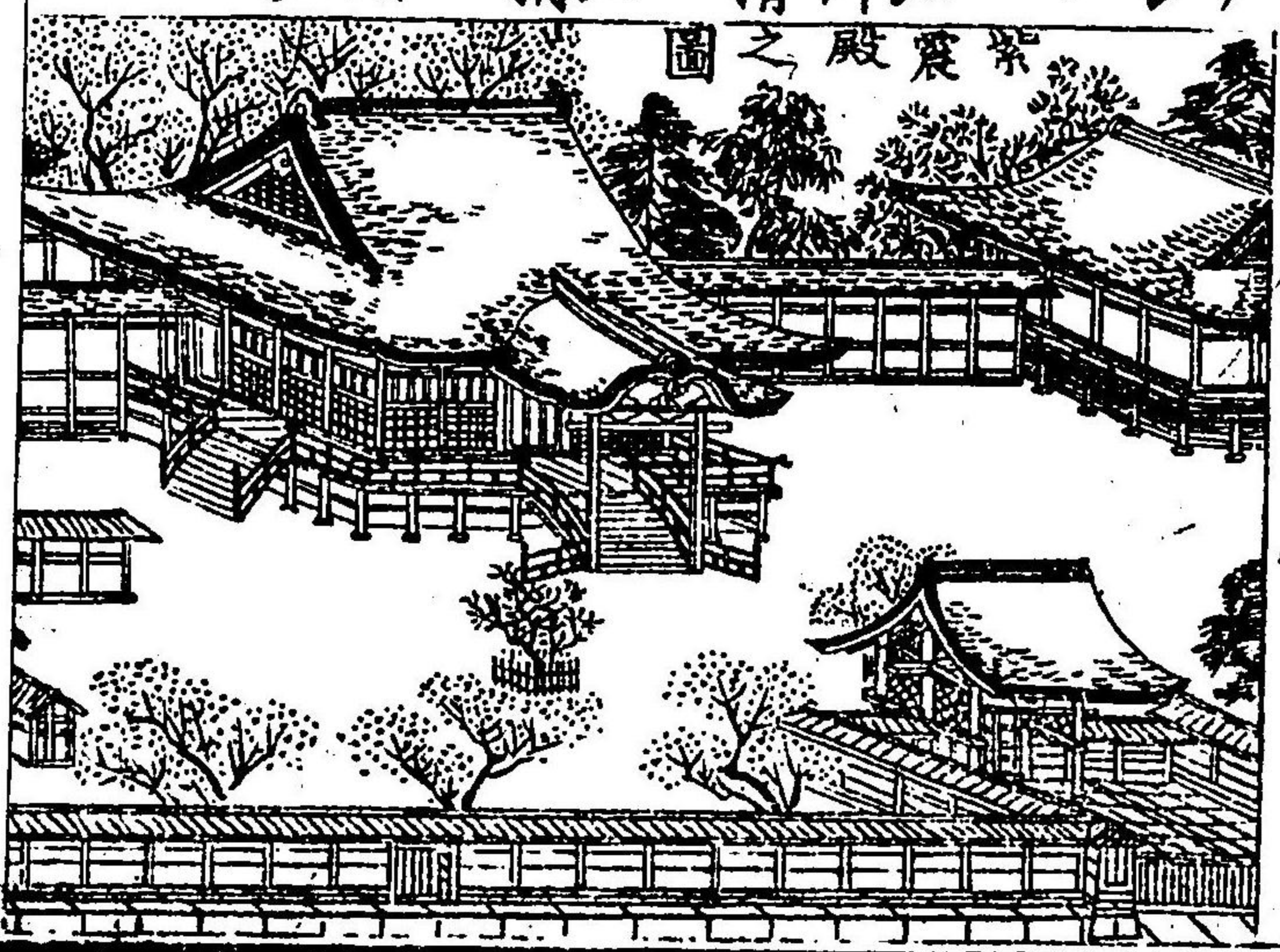
計劃あり。

奥羽街道ハ宇都宮福嶋仙臺ヲ經テ青森ニ達スルモノニシテ九百九十一里トス中仙道ハ浦和、高崎ヲ過ギ信濃、美濃近江ヲ經テ京都ニ達スルモノニシテ九百三十八里餘アリ東海道ハ静岡四日市大津ヲ經テ京都ニ達ス九百三十二里ニシテ中ニ五十三驛アリト云フ

乙、京都

京都ハ東京と距ること、九百三十餘里、山城の中央、加茂川の西岸ふ在り、桓武天皇以來、一千七十餘年間、歴代の帝都たりし處ふして、今尚皇居を存し、市街整正ふして、上京下京の二區ふ分ち、山水清麗、壯大なる官廳、社寺、學校等あり。人口二十四萬餘、京都府廳の在る處ふして、頗繁盛の大都會なり。

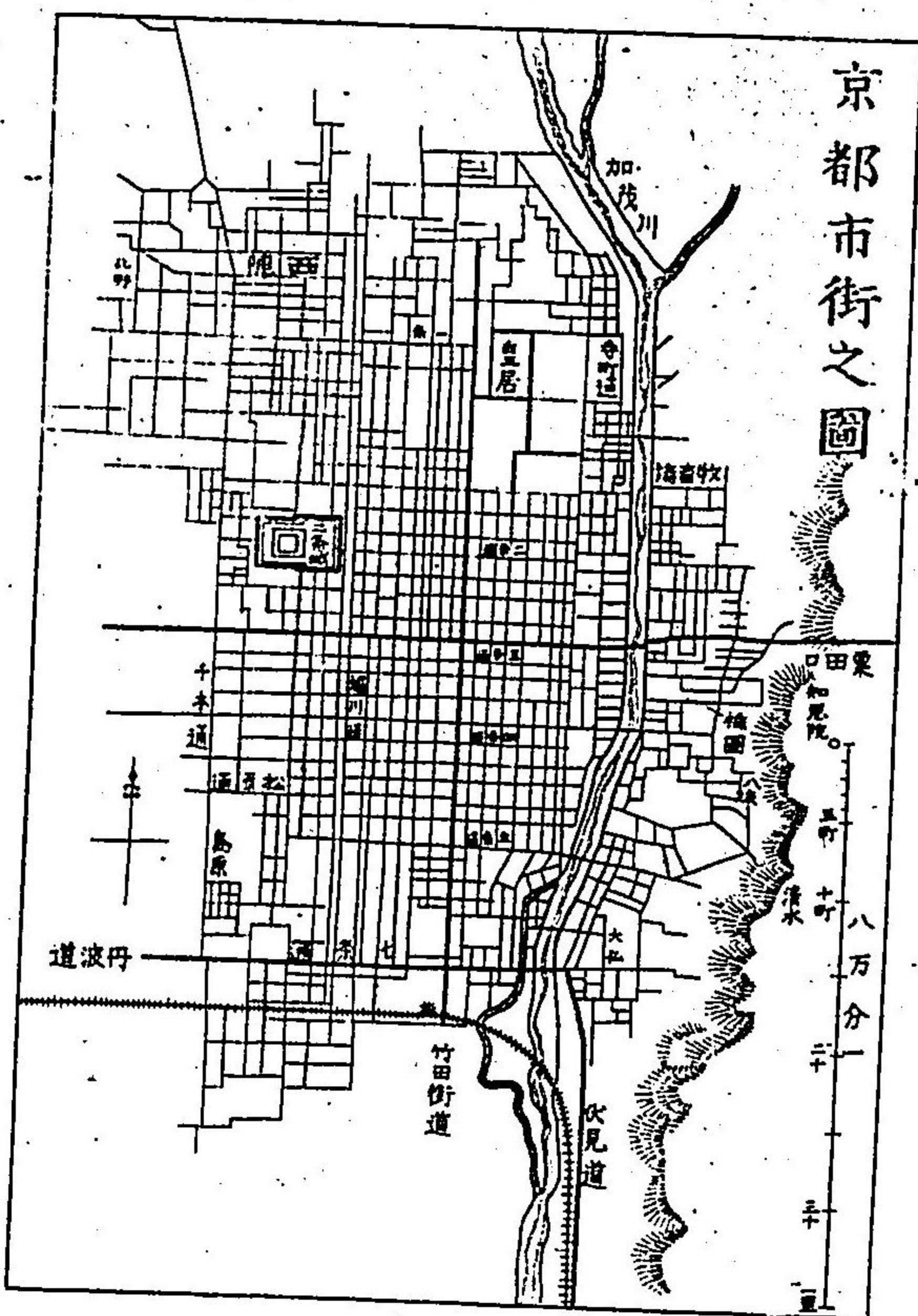
明治元年 帝都ヲ東京ニ遷シ給ヒシヨリ此地又西京ノシ稱アリ  
舊皇宮ハ府ノ東北隅ニ在リ禁裏御所ト稱シテ紫宸殿清涼殿等今尚存ス西陣ハ二條城ノ北方ナル市街概ニ稱ニシテ古ヨリ盛ニ錦繡及精良ナルテ京織ト稱シルヲ以テ高シ名高シ



市街の東ふ一帯の丘陵あり、東山と稱して、華頂山、祇園、清水等の名所あり、嵐山ハ櫻花を以て著き、高雄山ハ紅葉を以て名高し、此の他勝地の多きこと、全國第一とま。故ふ神社佛閣ふ詣り、或ハ名所舊蹟と尋ぬる者常小絶にぞ。

丙、大坂  
鐵道ハ府の南方を經過して、大坂、神戸及大津ふ達ま、其の長九、二十四里あり。  
大坂ハ淀川の河口ふ跨り、大坂灣ふ臨ま、我邦第二の大都會ふして、人口九、三十萬、東京

を距こと百四十里餘、京都を距る十三里。市街ハ溝渠縦横ふ通し、運漕頗便利なり、又市街の間ふハ壯宏なる官廳、學校、造幣局等あり。殊ふ大坂城ハ豊臣秀吉の築きし所ふして、頗堅固の名あり。此の地ふ大坂府廳あり、此の地ハ、水陸の運輸、極めて便利ふして、商業上の要路ふ當り、西海、南海、山陰、山陽、北陸諸道の貨物、皆茲ふ輻輳ま、故ふ商業の盛ふる、富賈の多き、共ふ全國の第一ふ位し、稱して帝國商業上の首府とたま。

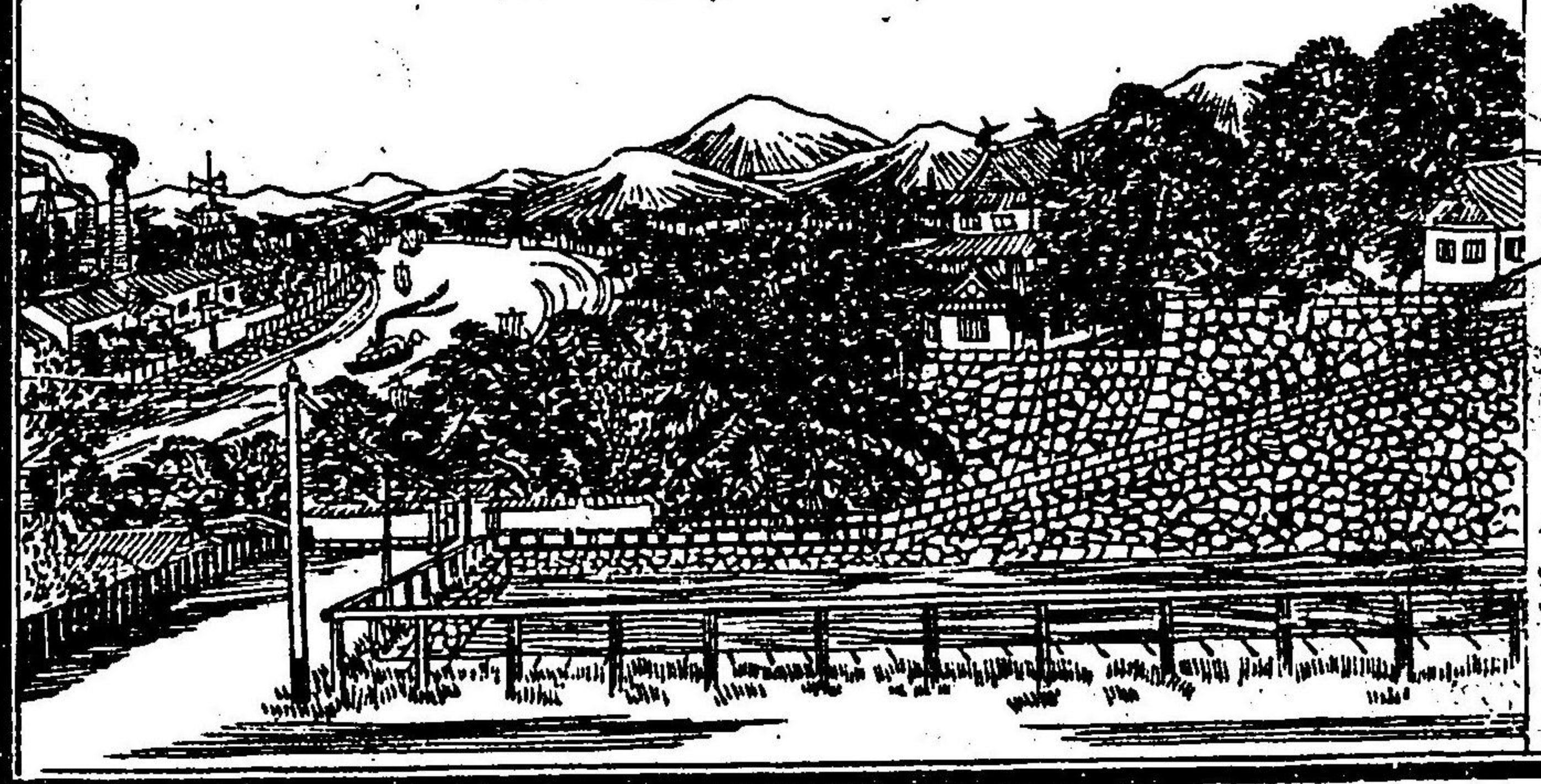


口五港  
甲、横濱

市坊ヲ分チテ東西  
南北ヨリ四國中  
此地ヨリ諸港へ小  
九州ノ復盛ナリ  
船ノ往來ヨリ  
鐵道ハ京都ヨリ  
ヲ神戶ニ達ス別  
堀ニ至ル鐵道アリ  
以上の都府と三府と  
稱す。

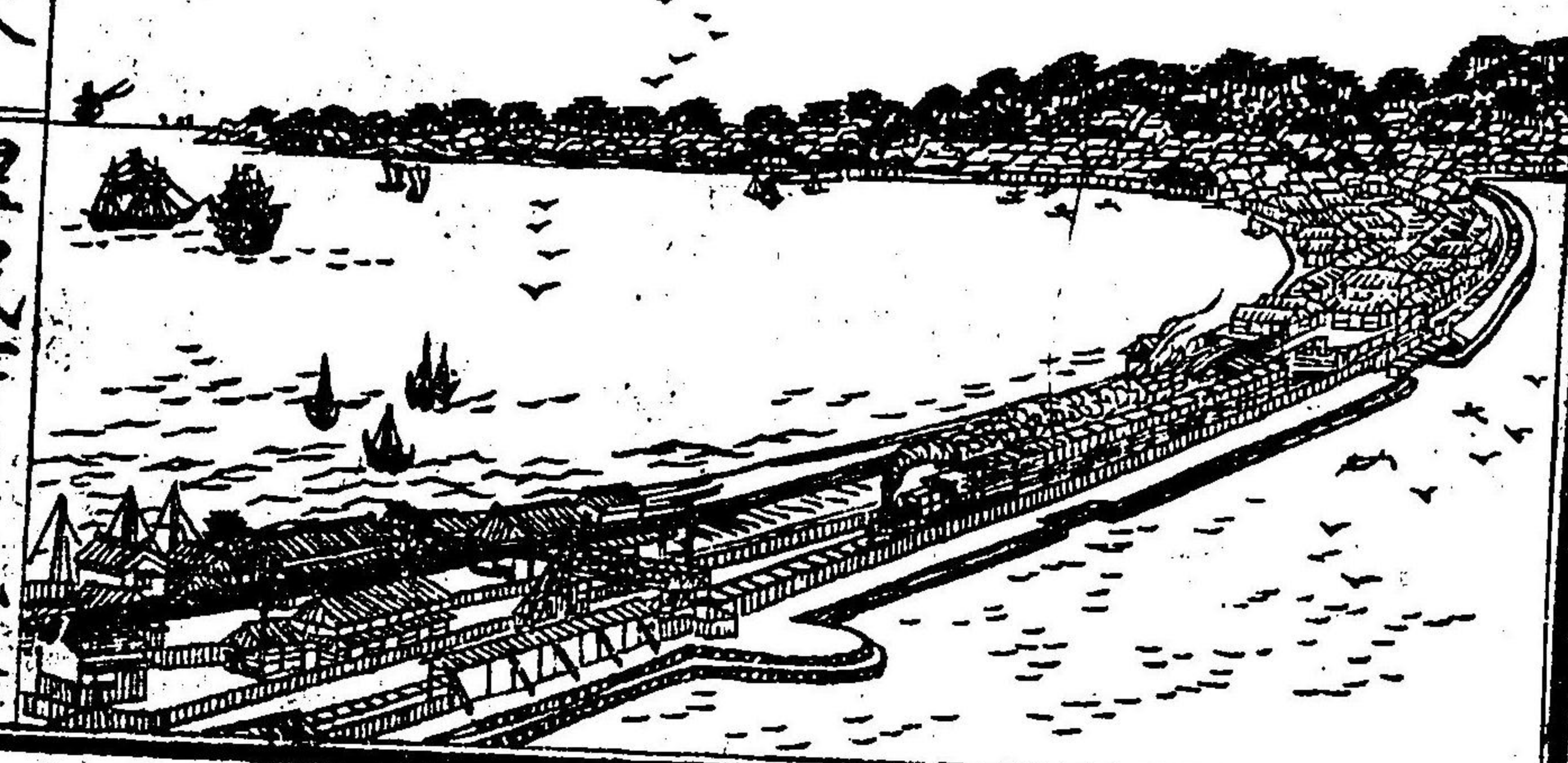
武藏の横濱ハ東京の  
西南八里餘、東京灣小  
濱せる處ニ在りて、人  
口五萬九千餘、神奈川

大坂城及造幣局之圖



縣廳あり。市街清潔、貿  
易繁盛ふして、互市場  
中第一之位を。此の地  
より全國諸港及海外  
各國ふ至るの交通甚  
便ふして、大艦巨船常  
ふ出入を。加ふる小鐵  
道ありて、東京と經て、  
中仙道、奥羽等ふ至る  
の交通と便ふせり。

横濱港之圖



此地ヨリ全國諸港ニ至ル航路ハ北ニ野蒜石ノ卷青森函館等アリ西ニ四日市神戸下ノ関長崎等アリ共ニ往復ヲ咸ニセリ

し、神戸

神戸ハ大坂より八里餘、攝津の西南端に在りて、大坂灣に臨み、淡川を隔て、兵庫と相連り、人口合して五萬四千餘、船舶常は港内

神戸港之圖



小輻輳し、盛ふ内外の  
貨物と貿易を此の地  
小兵庫縣廳あり。

丙、長崎

長崎ハ肥前の西南端、  
深く入り込きたる灣  
頭小在り、海灣凡二里、  
水深く波穏小して、碇  
泊不便なり、人口三萬  
餘、長崎縣廳の在る處  
小して、又製鐵造船等の工場あり。

長崎港之圖





此の地ハ我邦互市場中、最古きものにして、  
遠く二百年前より、支那、和蘭との貿易場た  
り。

丁、新瀉

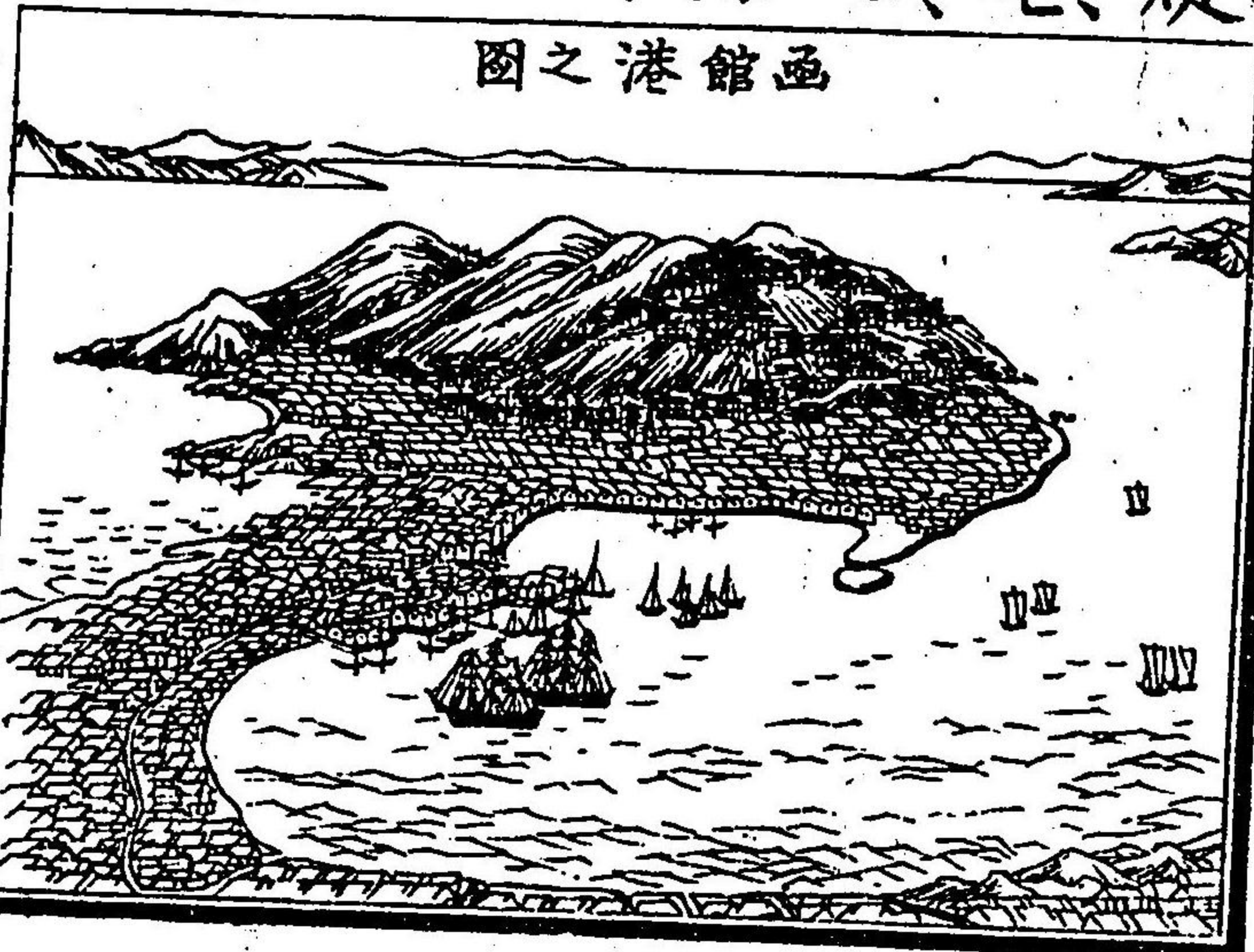
越後の新瀉ハ、東京より九、八十九里餘（三國通リ）  
信濃川の左岸ニ在りて、人口三萬八千餘、新  
瀉縣廳の在る處にして、市街繁盛なり、然し  
とも新瀉港ハ、信濃川の土砂、年々積重して、  
水淺きが故ニ、碇泊不便なり、且、風波あると  
きは、遠く佐渡の夷港ニ避くと云ふ。

戊、函館

函館ハ渡嶋の東南部、海岸ニ在り、灣内水深

きを以て、船舶常ニ碇  
泊し、盛ニ貿易をなす、  
故ニ商業の盛大なる、  
市街の繁華なる、北海  
道第一の都會にして、  
人口九、四萬餘、此の地  
ハ北海道廳の支廳あ  
り。

函館港之圖



以上の都邑と五港と稱し、外國との貿易場  
にして、外人の居留せる處なり。

ハ畿内  
甲、堺

乙、其他、  
都邑

和泉の堺ハ大坂の南九、三里、大和川の河口  
小在りて、人口四萬九千餘、昔ハ外國との貿  
易場たり、處なり。近時大坂との間、小鐵道  
あり。

此の地より、綴通と稱する織物、及鐵器と製  
出さ。

山城の伏見、大和の奈良ハ、共小繁盛なる都  
會、小して、人口各二萬餘あり、殊小奈良ハ往  
古の帝都、小して、壯大なる寺院、著名なる舊  
蹟多し、中小就きて、東大寺の金銅佛ハ、世小

奈良の大佛と稱し、其  
の名高し。

奈良ノ南方十里許  
ニ吉野山アリ、満山  
櫻樹多ク、花時ノ景  
色頗佳ナリ、且南朝  
ノ舊蹟在ルヲ以テ  
殊ニ著名ナリ、以テ  
大和ニハ此他尚名  
勝多キヲ以テ諸國  
ヨリ來遊スルモノ  
常ニ多シ之ヲ大和  
廻リト云フ

吉野山



此の他、攝津、小尼崎、西  
宮、池田、伊丹等の名邑

二、東海道  
甲、名古屋

ありて人口最多く、其小醸酒を以て名あり。  
名古屋ハ尾張の平野の南部に在り、東京と  
距ること九十四里、大坂と距ること四十三  
里餘、海岸に近く、土地平坦なるを以て、水陸  
の運輸に便なり。市街繁盛、人家稠密、人口九  
十二萬、三府に次げる大都會にして、愛知縣  
廳あり。扇、七寶焼ハ此の地の名産なり。

乙、静岡

駿河の静岡ハ東京より西四十六里餘、安倍川  
の東岸に在りて、人口三萬九千餘、本道中名  
古屋に次げる都會にして、静岡縣廳の在る

丙、其他  
都邑

處なり。此の地より漆器、竹細工を産む。  
伊勢の津、甲斐の甲府、武藏の浦和、下總の千  
葉、常陸の水戸ハ、本道中著名の都會にして、  
各縣廳の在る處なり。

此の他、伊賀の上野、伊勢の山田、桑名、尾張の  
熱田、三河の岡崎、豊橋、遠江の濱松、相模の小  
田原、武藏の八王子、川越、下總の鉾子ハ皆繁  
盛なる都會にして、各人口一萬以上あり。

伊勢ノ山田ノ南ニ内宮外宮ノ大祠アリ  
内宮ハ皇祖天照大神ヲ祀リ外宮ハ豊受  
太神ヲ祀ル所ニシテ年々諸國ヨリ來詣  
スルモノ陸續絶エズ所謂伊勢參宮ト唱

日本地理書卷之三十一 伊勢内宮之圖

亦東山道  
甲仙臺

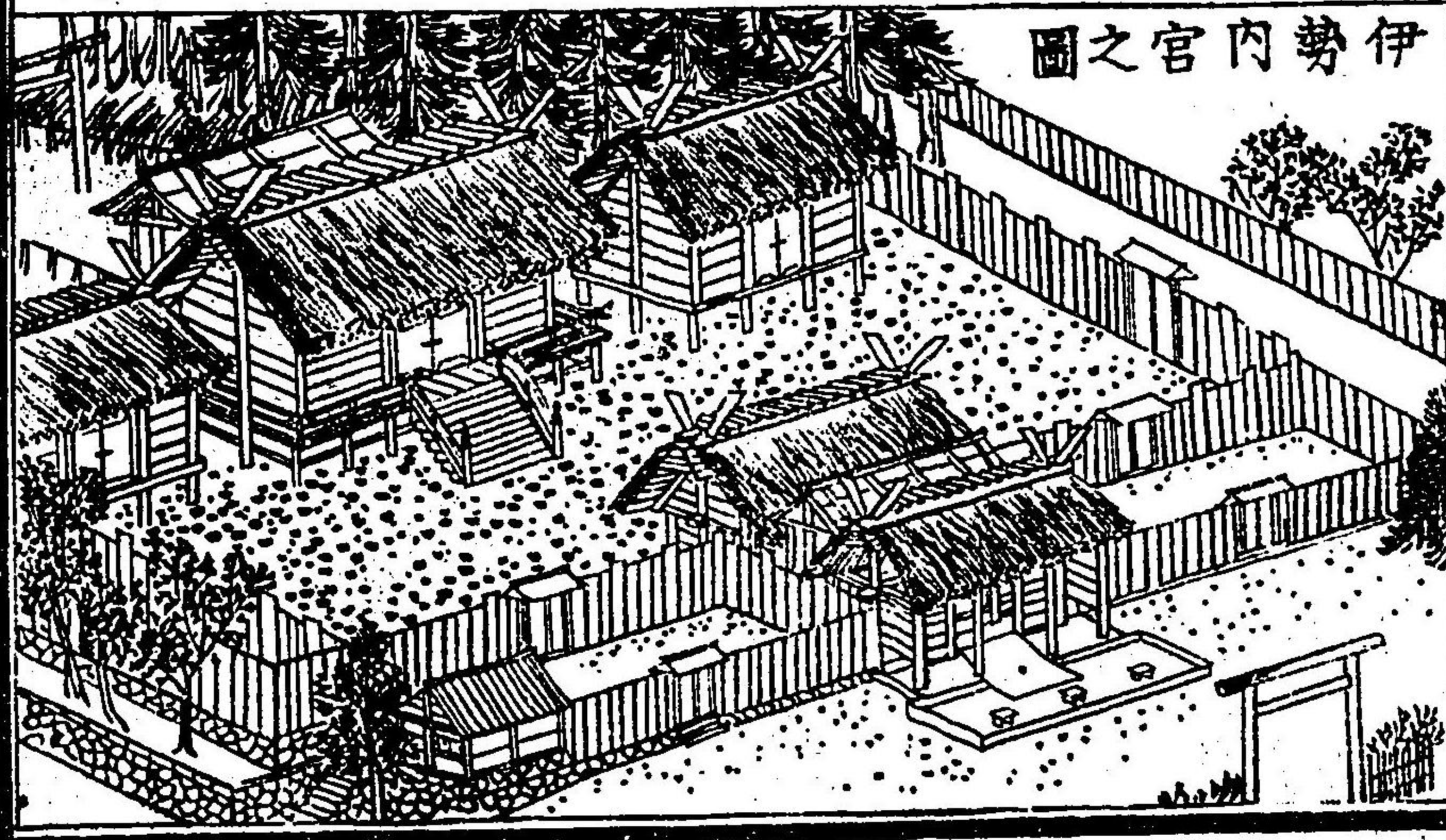
フルモノ是ナリ

仙臺ハ陸前ニ在リ、東  
京より北方九十二里餘  
廣瀬川の兩岸ニ跨リ  
て、人口五萬四千餘、本  
道中の大都會にして、  
宮城縣廳の在る處ナ  
リ、仙臺平ハ此の地の  
名産ナリ。

乙、其他ノ

近江の大津ハ、滋賀縣

伊勢内宮之圖



都邑

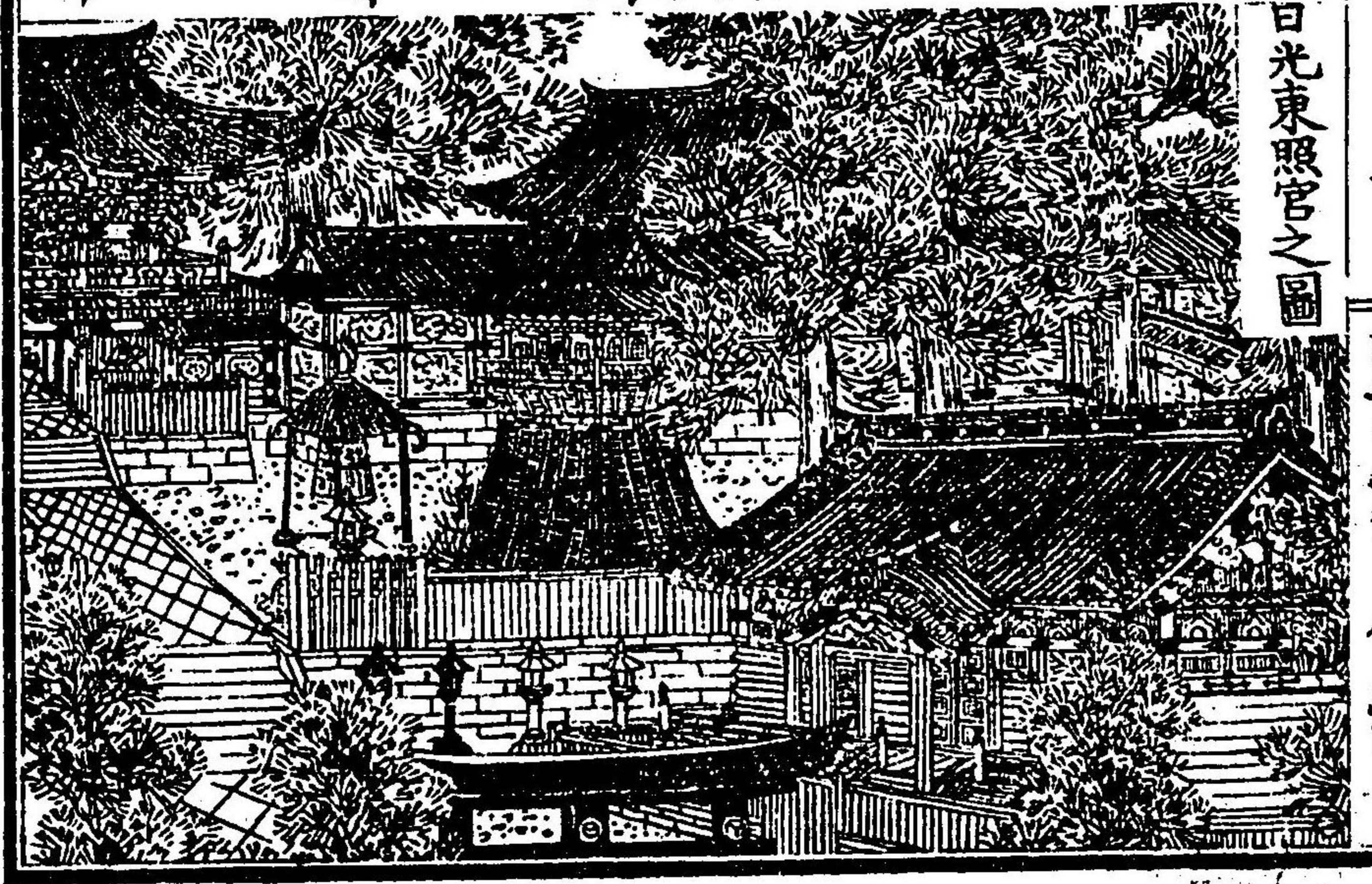
廳の在る處ふして、東海、東山、北陸諸道より、  
京都ふ入るの通路ふ當り、且、湖中を往來を  
る、瀛船の發着あり。京坂ふ通達を、鐵道の  
便利あるを以て、市街甚繁盛なり。美濃の岐  
阜、信濃の長野、上野の前橋、下野の宇都宮、岩  
代の福嶋、陸中の盛岡、陸奥の青森、羽前の山  
形、羽後の秋田ハ、各縣廳の在る處ふして、共  
ふ有名の都會なり。

宇都宮ノ西北九里許日光山ノ麓ニ東照  
宮アリ殿堂ノ結構壯麗ヲ極ム山中亦奇  
景多ク中禪寺湖及華嚴霧降裏見等ノ瀑  
布アリテ夏季遊賞スルモノ頗多シ

日本地理書卷之三  
皇氣書卷之四

此の他、近江の彦根、美濃の大垣、飛驒の高山、信濃の松本、上野の高崎、下野の足利、岩代の若松、陸奥の弘前、羽前の米澤、鶴が岡、羽後の酒田等ハ、皆重要なる都會なり。

鐵道ハ長濱江近より



日光東照宮之圖

へ、北陸道  
甲、金澤

起りて二支となり、其の大垣美濃に至るもの  
ハ、九十里ふりて、其の敷賀前越小達をるもの  
ハ、九十里餘なり。又前橋、高崎野上及宇都宮野下  
ハ東京と汽車の往復あり。  
加賀の金澤ハ犀川、淺野川の畔畔に在りて、人  
口十萬九千餘、本道中の大都會ふりて、石川  
縣廳の在る處なり。城市の宏壯ふりて、其の  
繁盛なるハ名古屋ふ次ぐ。此の地より陸路  
東京まで九百三十里、京都まで九百六十里あり、故に交通甚便ならむ。

乙、其他、都邑

九谷焼、象嵌細工ハ、此の地の名産なり。  
越前の福井、越中の富山ハ、繁盛なる都會ふ  
して、人口各四萬餘と有し、各縣廳の在る處  
なり。此の他、越後の三條、長岡、新發田、高田、柏  
崎、越中の高岡、魚津、若狹の小濱等亦繁盛な  
る都會なり。

ト、山陰道、甲、松江

出雲の松江ハ、大坂を距ること九、八十里、宍  
道湖の東岸ふ在りて、人口三萬八千餘、市街  
繁盛、風光絶佳、舟運最便ふして、山陰道第一  
の都會なり。此の處、小嶋根縣廳あり。

乙、其他、都邑

松江ノ西方十一里嶋根半嶋ノ西端ニ并  
築ノ大社アリ大國主神ヲ祀ル所ニシテ  
出雲大社ト稱ス賽者常ニ多キヲ以テ市  
街為ニ繁盛ナリ  
因幡の鳥取ハ、千代川河口の東ふ在りて、人  
口三萬四千餘、鳥取縣廳の在る處なり。此の  
他、丹波の龜岡、丹後の宮津、舞鶴、但馬の出石、  
伯耆の米子、石見の濱田ハ、皆其の國々ふて、  
重要なる都邑と稱せべし。

山陰道ニハ人口一萬以上ヲ有スル都邑  
少ク松江鳥取ノ外唯宮津米子ノ二邑ア  
ルノミナリ

チ、山陽道、甲、廣嶋

安藝の廣嶋ハ、大坂の西方九、九十里、大田川



乙、其他、  
都邑

リ、南海道  
甲、和歌山

小跨り、海灣ふ臨之、市街繁盛、人口七萬五千餘、山陰、山陽兩道中第一の都會ふして、廣嶋縣廳の在る處なり。  
備前の岡山、周防の山口ハ、各縣廳の在る處ふして、播磨の明石、姫路、美作の津山、備後の福山、尾ノ道、周防の岩國、徳山、長門の萩、赤間関ハ、皆人口一萬以上と有し、繁盛なる都會なり。

人口五萬六千餘、和歌山縣廳あり。此の地より産する綿アラ子ルハ最著名なり。

和歌山ノ南方一里ニ和歌浦アリ州崎ノ松原玉津嶋ノ社等ノ眺望絶佳ニシテ古來勝景ヲ以テ名アリ  
又和歌山ノ東方十三里許高野山ノ頂ニ金剛峯寺アリ寺院千有餘古來著名ノ大寺ニシテ遠近ヨリ來詣スルモノ甚多シ又山中ニハ杉槇等ノ大樹繁茂シ頗幽邃ノ地タリ

乙、徳嶋

徳嶋ハ、吉野川河口ふ在りて、人口九、五萬八千、四國第一の都會ふして、瀛船常ふ神戸、大坂等と相往來す、此の地ふ徳嶋縣廳あり。  
土佐の高知、伊豫の松山ハ、各縣廳の在る處

丙、其他、  
都邑

ふして繁盛の都會なり。紀伊の田邊、阿波の撫養、讃岐の高松、丸龜、伊豫の今治、宇和嶋ハ皆人口一萬以上ありて、繁榮なる都會あり。

丸龜ノ南方三里餘象頭山ニ琴平神社アリ其建築ノ壯麗ナルコト全國ニ比少ク賽者常ニ多シ

又、西海道  
甲、熊本

肥後の熊本ハ大坂より西南百九十里餘、白川の北岸に臨み、人口九、四萬二千、熊本縣廳の在る處なり。此の地ハ我帝國中最堅固なる城壁あるを以て名高し。

乙、鹿兒嶋

薩摩の鹿兒嶋ハ大坂と距ること二百四十

丙、其他、  
都邑

五里、鹿兒嶋灣の西  
北岸に在りて、人口  
五萬四千餘、本道中  
最、人口多き都會に  
して、鹿兒嶋縣廳あ  
り。  
筑前の福岡ハ、博多  
港と市街相連り、頗  
繁盛なり。豊後の大  
分、肥前の佐賀、日向

熊本城之圖



日本、地理書卷之二  
長崎書卷之二

の宮崎ハ皆重要なる  
都會小して各縣廳の  
在る處なり。

ル琉球

諸嶋中都會と稱さべ  
きもの少く、沖繩嶋小  
在るものと除くの外  
ハ概一村落小過ぎざ  
那覇ハ沖繩嶋の西南  
海岸小在りて、人口二  
萬四千餘、傍小那覇港

甲、那覇

那覇港之圖



ありて、船舶輻輳し、市街繁盛なり、此の地ふ  
沖繩縣廳あり。

乙、首里

那覇港ハ有名ナレドモ港内水浅ク處々  
ニ暗礁アリテ大船ヲ入ル、コト能ハズ  
首里ハ那覇の東、五十町ふ在り。人口二萬四  
千餘、此の地ハ、舊琉球王の居城の在る處ふ  
して、頗繁盛の都會なり。

丙、其他  
都邑

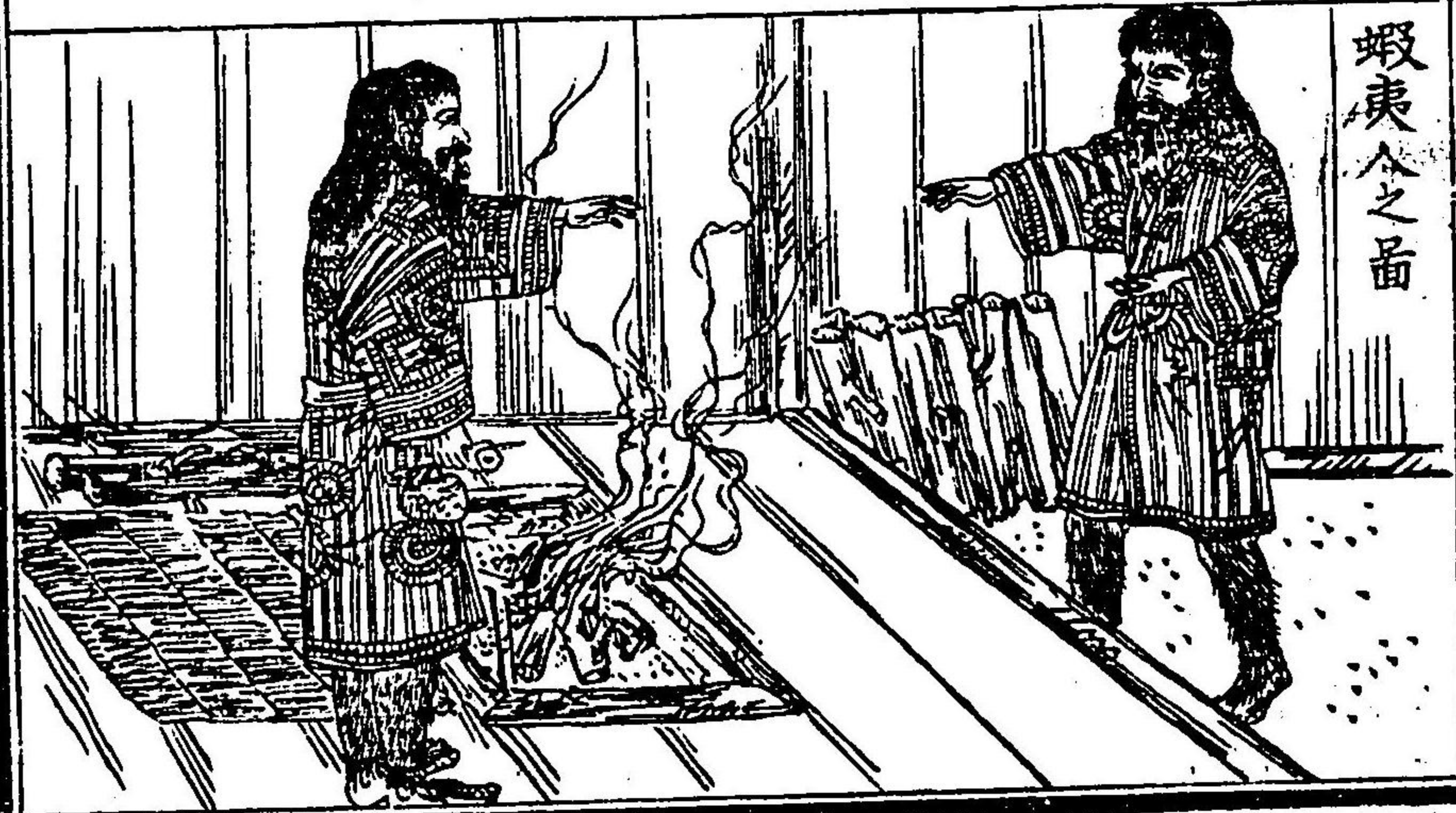
那覇の東ふ、久米泊の二邑ありて、人口各五  
千以上、小達し、亦小都會となせり。

ヲ、北海道  
甲、札幌

石狩の札幌ハ、東京より九、二百七十里、石狩  
川の下流ふ在りて、人口九、一萬三千、近年新

日本、北海道、石狩、札幌、人口、一萬三千、近年新

小開けける市邑なまとも、壯麗なる官廳、學校、病院等ありて、後來繁盛の景狀あり、此地ハ舊、開拓使本廳の在りし處ふりて、今北海道廳を置けり。此の地より手宮（後志）及幌内（石狩）ふ至る鐵道あり、其の長凡、二十三里



蝦夷人之番

乙、其他、都邑

あり。

根室ハ千嶋ふ渡る要津ふりて、北海道廳の支廳の在る處なり。渡嶋の福山、江差、後志の小樽、岩内、膽振の室蘭、釧路の厚岸ハ皆名邑なり。中ふ就きて福山、江差ハ人口一萬以上を有せり。

十三、結論

我帝國ハ近年國勢駿々として進歩し、文教普く敷き、武備大ふ張る、陸ふ瀛車あり、海ふ瀛船あり、又電信、郵便の設ケあり、以て運輸を便ふし、音信を通む、其の他、百藝皆改良上

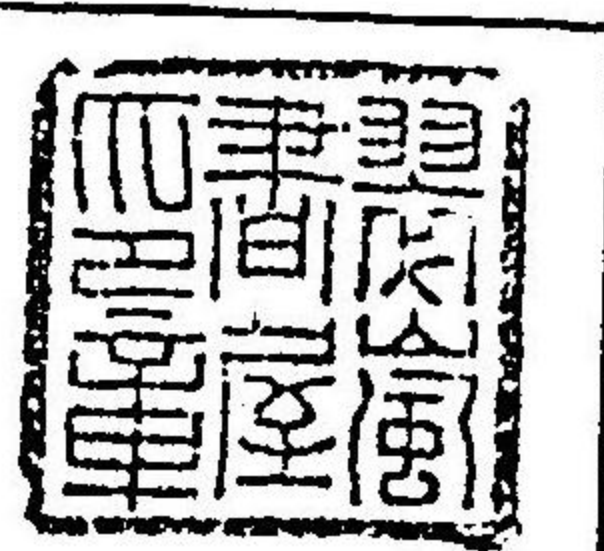
進の狀あり、故小天産人工日小月小増殖を、  
 實小盛かりと云ふべし、是を我  
 天皇陛下の恩澤裕渥なる小依るものなき  
 ば、臣民たるもの、深く天恩を奉戴し、愛國の  
 誠忠と竭さるべからば。

日本小地理書卷之二終

明治十九年十二月廿五日版權免許

同二十年二月 日出版  
 同 年八月三日 訂正再版御届

卷定價金拾五錢



編輯人

高城與五郎

下野国河内郡高田村十三番地  
 準九番地寄留

東京府平民

東京府平民

出版人

小林喜右衛門

東京府日本橋區新大塚町十番地

弘通書肆

東京 大塚  
 愛知縣 名古屋  
 宮城縣 仙臺  
 福島縣 福島

原田庄左衛門  
 松村九兵衛  
 片野東四郎  
 伊勢安右衛門  
 上野屋彦太郎

長野縣 長野  
 新潟縣 高田  
 新潟縣 長岡  
 越中 富山  
 栃木縣 宇都宮

西澤喜太郎  
 倉石昌吉  
 目黒十郎  
 真田善次郎  
 田中正太郎

